

土屋粹-「4・7暴力事件」デッチ上げの翌日に
一輪車を転がし肉体労働

『4・7暴力事件』デッチ上げ弾劾 202

デッチ上げ粉碎し、中江絶対勝利を

われわれは、動労革マル・松崎と土屋粹による「4・7暴力事件」デッチ上げを断じて許さない。「暴力」は完全なデッチ上げであり、権力の弾圧を呼び込んで動労千葉と国労をつぶそうとするものである。土屋粹のデッチ上げと、動労革マルの策動を暴露し徹底的に弾劾する。

動労千葉に敵対してきた土屋粹

すでに、本紙上で明らかにしたとおり、「暴力事件」なるものは全くのデタラメである。「動労千葉地本委員長」土屋粹は、四月七日、幕張電車区に現われて、当然にも動労千葉の組合員から抗議されたのだ。そもそも土屋粹はこの間、何をしてきたというのか。

わが動労千葉組合員にこそ近づく、「動労千葉に」と新会社に行けない。全員清算事業団だ。だから直営売店へ行つて脱退しろ」と敵対しつつつけてきたではないか。そして、動労千葉のほぼ全員が新会社へ行けるとなるや、当局に対して「配転で差別してくれ」と泣きつき、差別・選別！動労千葉つぶしの先兵となってきたのだ。こうした土屋粹に、怒らない労働者が一人でもいると思うのか。弾劾されて当然なのである。

革マル・松崎の狙いは明日

自分達と意見が対立する者を認めず、これをつぶすためならどんなことでもするのが動労革マルである。

「4・7幕張問題」について、遅れて報告を受けた革マル・松崎は、「暴力事件」をデッチ上げて動労千葉にキズをつけようと、二日後の四月九日、土屋粹を病院に行かせ、東日本旅客会社と新聞社にタレ込んだ。さらに、できるだけ「コト」を大きくするために、四月十日、仰々しく記者会

見を行い、なんと千葉西警察署に二名を告訴したのである。

革マル・松崎の本音は、四月九日付で住田社長宛に申し入れた、①暴力行為、業務妨害した者のよ厳罰、②職場を管理できない管理者三名の最高の処分、③動労千葉の温床となっている幕張電車区の廃止、④職場管理の強化、にはつきり現わされている。

つまり、千葉運行部の仕事を奪い、動労千葉と国労の首を切ろうとしているのだ。

「椎間板性腰痛症」は持病

何度でもいうが、「暴力事件」はデッチ上げである。

土屋粹は「事件」の翌日の四月八日は日勤で出勤し、当局の事情聴取を受けつつ構内整備に精を出し、汗を流しながらシャベルで土を掘り一輪車を押したりすることをしてしているのだ。

にもかかわらず、その翌日の四月九日に椎名病院に行つて「椎間板性腰痛症」なる診断書をもらい、当局に提出した。

「椎間板性腰痛症」は、土屋が一九八五年九月五日から十八日までの二週間、同じ病名で病欠をとっているように持病なのである。

すなわち、「暴力」がないから診断書をとれなかったのであり、「事件」は100%デッチ上げであることを示している。

われわれは、革マル・松崎と尻馬に乗る土屋、そしてこれを利用せんとする権力・当局の弾圧を断じて許さず闘う。

動労千葉推薦候補全員当選かちとろ！

- | | | | | |
|----|--------------|--------|-----------|--------|
| 当選 | 市川 福平（千葉選挙区） | 二三三九〇票 | 高橋正八郎（印旛） | 二三七七四票 |
| 〃 | 松本 正二（船橋） | 一四四五七票 | 黒野 波三（佐倉） | 一三七〇二票 |
| 〃 | 小岩井 清（市川） | 二五七〇一票 | 北角 虎男（流山） | 一八六九五票 |

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎